

おこづかいに関するママのお悩み
～ママ FP のひとりごと⑩～

ファイナンシャルプランナー 鈴木さや子

この秋、一部の小学校にてPTAが主催する家庭教育学級が盛んに行われています。私もこれまでいくつかの小学校で、保護者さまに金融教育についてのお話をさせていただき、その中で多くの保護者の方が、「お金の教育」について悩まれていることを実感しております。私も一保護者として、どのように子どもを育てたらいいか、ということには日々悪戦苦闘しており、保護者の方のお悩みに非常に共感するとともに、「お金の教育」について少しでもお役にたてる情報を提供しようと、気持ちを引き締めてご相談に応じています。今月は、最近の講演時にママからいただいたご質問のうちいくつかを、Q&A方式でお届けしたいと思います。

1. 物欲がない息子

Q：1年生の男の子のママより

おこづかい制度を始めたいと思っているのですが、息子は特に欲しいものがないようで、「まだ要らない」と言われてしまう。どのように導入すればいいのか。

色々とお話を伺っている中で、以下のような項目が出てきました。

- ・買物などで出かけるたびに、ガチャガチャをせがまれて、本当は嫌だけどうるさいのでついお金を渡してやらせてしまう。
- ・お菓子やジュースがいつも家にたくさんある。

そこで次のようにお話ししました。

A：使いみちを決めて、おこづかいを始めてみませんか？（たとえば、ガチャガチャはおこづかいの中からするなど）

「何も欲しいものがない」という状況は、常にモノが身のまわりにあふれているから。ねだったものをママがすぐに与えているのが原因です。欲しいものがいつでも手に入るのであれば、自然と物欲は減っていきます。小学生になったのを機会に、ガチャガチャをしてあげる習慣を断ち切るのはいかがでしょうか。そしてどうしてもしたい時は、子ども自身のおこづかいでやらせましょう。ガチャガチャは一回100円～300円。仮に1ヶ月200円のおこづかい制にした場合、1ヶ月分の収入を一度のガチャガチャで使い切ることになり、「どんなにやっても月に1回」「せっかくもらったおこづかいが全く手元に残らない」という事実により、1年生でも次第に気が付きます。そして頻度を減らす、やめるなど、自分のアタマで考えて工夫することにつながります。自分のお金で、欲しいモノを手に入れる喜びを教えるツールとして、おこづかいはとても活用できるのです。

2. 報酬制の金額

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

Q：3年生の女の子のママより

報酬制でおこづかいを始めたい。お手伝いの種類と金額はどのように決めればよいか。

我が家で実際に使っている報酬制のお手伝い一覧表を、参考資料としてお見せした時に、質問されたものです。

A：まず、子どもにやりたいお手伝いをリストアップさせ、ママやパパがやって欲しいお手伝いを追加するのがよいでしょう。金額については、「どのくらい大変か」「頻度は多いか」など子どもと話し合いながら、なるべく子ども自身に決めさせたいですね。

報酬制でおこづかいを始める場合、子どもに「家のお手伝いを家族の一員としてする大切さ」を理解させるのが大切。そのためにも、子ども自身にやりたいお仕事と金額を決めさせ、色んなお手伝いにチャレンジし、楽しんでお手伝いを自発的にしてもらいましょう。そして親子で話し合うことによって、「こんなお手伝いがしたかったのね」「意外とこのお手伝いは大変なのね」「ママはこんなお手伝いをしてほしかったんだ」と理解しあえるかと思えます。この話し合いは子どもの成長とともに、定期的に行い、お手伝いの項目と金額の見直しを適宜して、バージョンアップしていきましょう。

3. 夫がおこづかいに反対

Q：中学生の男の子のママより

夫が、おこづかいなんかあげなくて良いと反対します。どうすればいいですか？

おこづかいを始めたいが、子どもの必要な時に必要な額を渡せばいいと夫が反対しているケースです。

A：高校生になると、お友達と遠出する、好きな洋服を買うなど、自分のお金で楽しむ機会が自然と増えます。お金と上手に付き合うには「稼ぐ」「貯める」「使う」の3つの行動をバランスよくすること。そのためにも、少額でこれらを体験できるおこづかいで練習するのが一番です。高校生ともなると、どうしても親の目が行き届かなくなる範囲が増えてくるので、小中学生のうちにおこづかいで練習しておくことをおすすめします。

中学生以上になると、親の言うことをきかなくなる子どもが増えると言います。お金の話がざっくばらんにできる環境を作るためにも、親子間で十分なコミュニケーションが取れる年齢のうちに、おこづかいを始めるのがいいのではないかと考えています。

おこづかいは、少額でやりくりも学べ、働く大変さも体験できる、金融教育における万能教材です。色々な価値観や考え方はあれど、自分の子どもに、お金の振り回されない人生を送って欲しいと願うのは、どの親も同じ。子どもに自立心を植え付ける意味でも、ぜひおこづかいという万能教材を上手に活用してほしいです。

《今月のお気に入り曲》

交響曲第39番

／モーツァルト作曲

第40番、第41番と並ぶモーツァルト後期3大交響曲のひとつ。爽やかさと力強さを兼ね備えた名曲です。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.